

SUAC理解・基礎データ集 2024

はじめに

静岡文化芸術大学は、平成12年4月に静岡県立大学短期大学部を改組転換して新たに設置された大学であり、開学当初は静岡県、浜松市、地元経済界が協力して設立した学校法人が運営する公設民営方式の私立大学であった。その後、平成22年4月に静岡県が設立した公立大学法人が運営する公立大学に移行し現在に至っている。

- 1 開学年月日 平成12年4月1日（設置認可：平成11年12月22日）
- 2 所在地 浜松市中央区中央二丁目1番1号
- 3 学 長 よこやま としお 横山 俊夫（平成28年4月1日就任、令和4年4月1日再任）
- 4 副学長 かんたけ しんいち 寒竹 伸一（平成30年4月1日就任、令和6年4月1日再任）
もり しゅんた 森 俊太（令和2年4月1日就任、令和6年4月1日再任）

5 設置主体 公立大学法人静岡文化芸術大学

6 建物構造等

- ア 土 地・敷地面積：28,256.22㎡ 浜松市が譲与
- イ 校 舎・構 造：鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
- 規 模：地上12階地下1階建（研究棟）
地上1～5階建（研究棟以外）
- 建築面積：17,867㎡
延床面積：50,688㎡
建設費：約213億円 静岡県が全額助成

7 設立の趣旨

21世紀という時代と地域の要請を踏まえ、様々な分野で活躍できる人材を養成し、本県産業の発展と文化の向上並びに学術の振興に寄与する。

ア 豊かな人間性と的確な時代・社会認識を持ち、国際社会で活躍できる人材養成

イ 地域、世界、世代が教育研究の場で融合する“開かれた大学”として地域、国際社会の発展に貢献

1 学部生・大学院生数の推移

(1) 学部・学科

基準日：各年5月1日（単位：人）

学部名	学 科 名	在 籍 者 数		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
文化政策学部	国際文化学科	447	467	461
	文化政策学科	244	250	249
	芸術文化学科	247	243	239
	小 計	938	960	949
デザイン学部	デザイン学科	485	484	486
合 計		1,423	1,444	1,435

(2) 大学院

基準日：各年5月1日（単位：人）

研究科名	専攻名	在 籍 者 数		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
文化政策研究科	文化政策専攻	13	16	17
デザイン研究科	デザイン専攻	25	24	24
合 計		38	40	41

2 学部生の出身県別一覧

基準日：各年5月1日（単位：人）

	学 部				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
北海道	12	12	13	15	18
青森県	9	5	6	4	6
岩手県	11	10	10	11	11
宮城県	5	7	7	7	6
秋田県	2	1	1	3	3
山形県	11	6	3	5	3
福島県	6	7	8	10	12
茨城県	13	15	14	13	15
栃木県	13	13	17	19	17
群馬県	7	10	8	11	10
埼玉県	2	2	3	4	3
千葉県	8	8	6	5	6
東京都	8	8	9	10	9
神奈川県	8	10	9	9	9
新潟県	15	15	20	21	18
富山県	15	12	9	13	16
石川県	16	13	10	11	10
福井県	15	13	13	16	12
山梨県	26	28	29	29	22
長野県	39	34	34	32	29
岐阜県	57	60	61	57	60
静岡県	559	541	551	575	580
愛知県	326	327	329	309	311
三重県	56	53	53	55	46
滋賀県	8	8	9	8	8
京都府	18	16	12	14	13
大阪府	11	15	13	11	11
兵庫県	19	20	15	15	17
奈良県	3	3	2	2	1
和歌山県	6	7	7	8	7
鳥取県	5	4	4	1	0
島根県	3	8	8	9	8
岡山県	11	14	19	20	22
広島県	8	9	8	9	11
山口県	1	2	2	2	5
徳島県	5	4	4	6	8
香川県	9	7	8	9	8
愛媛県	9	11	18	19	18
高知県	2	4	10	11	10
福岡県	12	11	8	5	5
佐賀県	1	1	1	2	2
長崎県	4	3	4	4	3
熊本県	13	11	11	10	10
大分県	2	3	1	1	1
宮崎県	6	6	5	5	7
鹿児島県	12	10	12	10	10
沖縄県	9	8	12	12	14
留学生・帰国生徒等	9	11	7	7	4
合 計	1,425	1,406	1,423	1,444	1,435

3 退学者数及び休学者数

(1) 退学者数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
21人	10人	12人	18人

(2) 休学者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
合計人計	40人	57人	66人	81人
うち海外研修など	11人	23人	30人	43人

4 教職員数等

(1) 教員内訳

令和6年5月1日現在（単位：人）

学部	学科	性別	教授	准教授	講師	特任教授	特任講師	特任助手	小計	合計
文化政策	国際文化	男	9	8	0	0	0	0	17	26
		女	7	2	0	0	0	0	9	
	文化政策	男	10	1	0	1	0	0	12	15
		女	1	2	0	0	0	0	3	
	芸術文化	男	2	1	1	0	0	0	4	13
		女	5	1	3	0	0	0	9	
デザイン	デザイン	男	13	6	2	2	0	5	28	39
		女	5	3	0	0	0	3	11	
小計		男	34	16	3	3	0	5	61	93
		女	18	8	3	0	0	3	32	
計			52	24	6	3	0	8	93	93

(2) 職員内訳

令和6年5月1日現在（単位：人）

	県派遣	市派遣	民間派遣	プロパー	期間契約 (事務)	臨時	非常勤	嘱託	計
男	8	1	1	19	0	0	3	1	33
女	5	0	0	12	22	6	4	4	53
計	13	1	1	31	22	6	7	5	86

1 令和6年度入試の学部・大学院の選抜状況

(単位：人)

学 部			国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科	デザイン学科		
						数学	実技	
一般選抜	前期	募集人員	65	40	36	40	35	
		志願者	151	147	95	214	124	
		志願倍率	2.3倍	3.7倍	2.6倍	5.4倍	3.5倍	
		受験者	141	134	84	199	121	
		合格者	69	48	44	45	43	
		入学者	64	45	39	40	40	
	後期	募集人員	10	5	5	10		
		志願者	139	95	76	192		
		志願倍率	13.9倍	19.0倍	15.2倍	19.2倍		
		受験者	33	34	32	111		
		合格者	16	6	5	15		
		入学者	13	5	4	15		
学校推薦型選抜	公募制	募集人員	18	10	14	25		
		志願者	53	44	52	119		
		志願倍率	2.9倍	4.4倍	3.7倍	4.8倍		
		受験者	53	44	52	119		
		合格者	18	10	15	25		
		入学者	18	10	15	25		
	英語重点型公募制	募集人員	7	/				
		志願者	14					
		志願倍率	2.0倍					
		受験者	14					
		合格者	7					
		入学者	7					
特別選抜	社会人	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名		
		志願者	4	0	1	1		
		受験者	4	0	1	1		
		合格者	1	0	1	0		
		入学者	1	0	1	0		
	帰国生徒	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名		
		志願者	0	0	1	0		
		受験者	0	0	1	0		
		合格者	0	0	0	0		
		入学者	0	0	0	0		
	外国人留学生	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名		
		志願者	0	0	0	1		
		受験者	0	0	0	1		
		合格者	0	0	0	0		
		入学者	0	0	0	0		

大学院		文化政策研究科	デザイン研究科
募集人員		10	10
志願者	学内推薦	1	6
	A 日程	2	11
	B 日程	7	20
	計	10	37
合格者		7	14
入学者		5	11

2 過去3年間の志願状況

(1) 学部入試

【令和4年度】

(単位：人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	県内/県外 構成比(%)	新卒/既卒 構成比(%)	男子/女子 構成比(%)
文化政策	国際文化	100	671	6.71	383	124	3.09	109	109	47/53	96/4	13/87
	文化政策	55	304	5.53	213	69	3.09	63	115	56/44	98/2	24/76
	芸術文化	55	222	4.04	161	67	2.40	60	109	28/72	93/7	13/87
	学部計	210	1,197	5.70	757	260	2.91	232	110	44/56	96/4	16/84
デザイン	デザイン	110	695	6.32	575	128	4.49	119	108	34/66	94/6	20/80
	学部計	110	695	6.32	575	128	4.49	119	108	34/66	94/6	20/80
総計		320	1,892	5.91	1,332	388	3.43	351	110	41/59	95/5	17/83

【令和5年度】

(単位：人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	県内/県外 構成比(%)	新卒/既卒 構成比(%)	男子/女子 構成比(%)
文化政策	国際文化	100	417	4.17	272	121	2.25	117	117	49/51	98/2	17/83
	文化政策	55	194	3.53	147	65	2.26	62	113	63/37	97/3	35/65
	芸術文化	55	206	3.75	151	63	2.40	56	102	30/70	95/5	11/89
	学部計	210	817	3.89	570	249	2.29	235	112	48/52	97/3	20/80
デザイン	デザイン	110	651	5.92	559	127	4.40	120	109	28/72	91/9	29/71
	学部計	110	651	5.92	559	127	4.40	120	109	28/72	91/9	29/71
総計		320	1,468	4.59	1,129	376	3.00	355	111	41/59	95/5	23/77

【令和6年度】

(単位：人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	県内/県外 構成比(%)	新卒/既卒 構成比(%)	男子/女子 構成比(%)
文化政策	国際文化	100	361	3.61	245	111	2.21	103	103	48/52	97/3	9/91
	文化政策	55	286	5.20	212	64	3.31	60	109	62/38	98/2	20/80
	芸術文化	55	225	4.09	170	65	2.62	59	107	27/73	95/5	12/88
	学部計	210	872	4.15	627	240	2.61	222	106	46/54	97/3	13/87
デザイン	デザイン	110	651	5.92	552	128	4.31	120	109	28/72	84/16	25/75
	学部計	110	651	5.92	552	128	4.31	120	109	28/72	84/16	25/75
総計		320	1,523	4.76	1,179	368	3.20	342	107	40/60	92/8	17/83

(2) 大学院入試

【令和4年度】

(単位：人)

研究科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	男子/女子 実数	学内/学外 実数
文化政策研究科	10	9	0.90	9	5	1.80	4	40	1/3	3/1
デザイン研究科	10	22	2.20	22	15	1.47	12	120	7/5	4/8
総計	20	31	1.55	31	20	1.55	16	80	8/8	7/9

【令和5年度】

(単位：人)

研究科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	男子/女子 実数	学内/学外 実数
文化政策研究科	10	11	1.10	11	11	1.00	9	90	3/6	3/6
デザイン研究科	10	22	2.20	21	13	1.62	11	110	5/6	8/3
総計	20	33	1.65	32	24	1.33	20	100	8/12	11/9

【令和6年度】

(単位：人)

研究科	定員	志願者	志願倍率(倍)	受験者	合格者	実質倍率(倍)	入学者	充足率(%)	男子/女子 実数	学内/学外 実数
文化政策研究科	10	10	1.00	10	7	1.43	5	50	1/4	2/3
デザイン研究科	10	37	3.70	36	14	2.57	11	110	3/8	8/3
総計	20	47	2.35	46	21	2.19	16	80	4/12	10/6

3 入試制度の概要

(1) 学部

選抜方式	概 要
一 般 選 抜	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の入学者受け入れの方針に従い、高等学校における学習の基本的達成度を問う大学入学共通テストを課す。 各学科が必要とする個別学力試験（デザイン学科は実技を含む）により入学者を選抜する。
学校推薦型選抜	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストを課さず、面接と小論文により入学者を選抜する。 「公募制入学試験」に加え、国際文化学科では英語小論文及び日本語面接と英語面接を課す「英語重点型公募制入学試験」を行っている。
特 別 選 抜	<ul style="list-style-type: none"> 社会人入学試験、帰国生徒入学試験、外国人留学生入学試験を実施している。

(2) 大学院

研究科	概 要
文化政策研究科	<ul style="list-style-type: none"> 学力検査（英語、専門）及び口頭試問により入学者を選抜する。 留学生については、条件を満たせば学力検査（英語）を免除することができる。 企業等の所属長の推薦を得て受験する者については、学力検査を免除し、研究計画書の提出をもってこれに代えることができる。
デザイン研究科	<ul style="list-style-type: none"> 学力検査（論述試験）及び口頭試問により入学者を選抜する。 受験者全員に、本学が指定する外国語検定試験の結果の提出を課している。 企業等の所属長の推薦を得て受験する者については、学力検査を免除し、業歴書及び主な業務成果の報告の提出をもってこれに代えることができる。

4 説明会・大学見学等

開催行事等	概要	実績等
オープンキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 例年、8月第1または第2土日に開催。 R5年度は、4年ぶりとなる完全対面（事前申込不要、人数制限なし）での実施。 <p>【実施内容】 入試説明、学科説明、模擬授業、各学科企画、オープンゼミ、研究室ツアー、工房見学ツアー、卒業生トーク、相談コーナー、サークル紹介等</p>	R5：3,756人
高校教員対象 オープンキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 全国の高校教員を対象とし、例年6月末・7月初旬の2回実施。 進路指導に直接携わる高校教員が本学への理解を深める機会を提供し、志願者の増加につなげることを目的として実施。 <p>【実施内容】 授業見学、学生による学科説明プレゼンテーション、入試説明等。</p>	R5：68人 (県内47人、 県外21人)
進学説明会	<p>【高校教員対象 大学説明会・相談会】※本学独自開催 ・名古屋会場にて実施。</p> <p>【県内国公立4大学合同説明会】 ・県内国公立4大学（本学、静大、浜松医大、県立大）が合同で6月～7月に実施。高校教員対象説明会・相談会（対面・オンライン）、高校生対象の説明会と高校生対象の相談会（オンライン）を実施。</p>	参加者 R5：20人
模擬授業	<ul style="list-style-type: none"> 志望校決定や大学での勉強について学ぶ機会として高校側からの依頼に応じて実施。 授業は高校へ出張して行う場合が大半だが、本学見学時や進学説明会時に授業を行う場合もある。 高校からの申込受付期間は、4月から5月まで。 	R5：49回
大学見学	<ul style="list-style-type: none"> 高校からの依頼に応じて実施。 主な内容は、大学概要説明、学生によるプレゼンテーション、施設見学、模擬授業等。 受入期間は、5月から10月まで。 	R5：23回

1 本学学生の海外への留学

(1) 静岡文化芸術大学学生の海外への留学等

① 大学間交流協定に基づく留学生（海外協定校への派遣）

基準日：各年5月1日（単位：人）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
フィンドレー大学（アメリカ）	0	9 (9)	11 (7)
サザンクロス大学（オーストラリア）	0	1 (1)	1 (0)
ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド （イギリス）	0	0	0
浙大城市学院（中国）	0	0	0
国立台湾師範大学（中国）	0	4 (4)	5 (1)
アイルランガ大学人文学部（インドネシア）	0	0	0
ボローニャ大学（イタリア）	0	4 (4)	6 (2)
湖西大（韓国）	0	4 (4)	4 (1)
ブルゴーニュ大学国際フランス語センター （フランス）	0	3 (3)	3 (3)
コートダジュール大学サステイナブルデザイン スクール（フランス）	0	3 (3)	4 (1)
国立高等装飾美術学校（フランス）	0	0	0
華東師範大学（中国）	0	1 (1)	1 (0)
イズミル経済大学（トルコ）	0	4 (4)	4 (3)
ダッカ大学（バングラデシュ）	0	0	0
ウダヤナ大学（インドネシア）	0	1 (1)	1 (0)
サンパウロ大学 哲学・文学・人間科学部 （ブラジル）	0	3 (3)	2 (0)
ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）	0	0 (0)	0 (0)
計	0	37 (37)	44 (18)

※（ ）書きは、派遣学生のうち、当該年度に新しく派遣した（する）学生数

※令和4年5月から海外協定校への派遣を再開

② 令和5年度語学研修

基準日：各年5月1日（単位：人）

- ・ 国際交流の機会を多くの学生に提供するため、2万円～3万5千円の費用補助を実施
- ・ 研修後に受験する外部検定の費用補助を実施

区 分	語 学	参加人数 実地／オンライン
国立台湾師範大学（台湾）	中国語	13／0
サザンクロス大学（オーストラリア）	英語	1／0
デ・ラ・サール・アラネタ大学附属語学センター （フィリピン）	英語	2／5
ヴィクトリア大学（カナダ）	英語	2／3
チチェスター大学（イギリス）	英語	3／0
F+Uアカデミー（ドイツ）	ドイツ語・イタリア語	0／2
ブルゴーニュ大学CIEF（フランス）	フランス語	1／0

2 外国人留学生の受入

(1) 海外学生の静岡文化芸術大学への留学

基準日：各年5月1日（単位：人）

国別	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
	学部生	大学院生	研究生	交換留学生	学部生	大学院生	研究生	交換留学生	学部生	大学院生	研究生	交換留学生
中国	1	16	1	0	2	12	4	3	1	7	5	3
韓国	3	0	0	0	2	0	0	5	0	0	0	3
台湾	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
インドネシア	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	5	16	1	0	5	13	4	8	3	8	5	9

※研究生…1年以内の研究従事・単位規定なし

(2) 大学間交流協定に基づく留学生（提携校からの受入れ）

基準日：各年5月1日（単位：人）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
浙大城市学院（中国）	0	3 (3)	6 (3)
国立台湾師範大学（中国）	0	0	1 (1)
アイルランガ大学人文学部（インドネシア）	0	0	0
ボローニャ大学（イタリア）	0	0	0
湖西大学校（韓国）	0	5 (5)	6 (3)
コートダジュール大学サステイナブルデザインスクール（フランス）	0	0	2 (2)
国立高等装飾美術学校（フランス）	0	0	0
華東師範大学（中国）	0	0	0
イズミル経済大学（トルコ）	0	0	0
ダッカ大学（バングラデシュ）	0	0	0
ウダヤナ大学（インドネシア）	0	0	0
サンパウロ大学 哲学・文学・人間科学部（ブラジル）	0	0	0
ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）	0	0	0
計	0	8 (8)	15 (9)

※（ ）書きは、受入留学生のうち、当該年度に新しく受入れた学生数

※令和4年度後期から留学生の受入れを再開

3 海外渡航に関するサポート

派遣留学生危機管理サービス（Overseas Student Safety Management Assistance Plus）

（本学公式のプログラムは加入必須、割引保険料で加入可能）海外渡航中、24時間年中無休で日本語による電話サポートが受けられ、ケガ・病気への備え（治療費用、救済者費用等）、病院予約等ができる。

1 学部生

(1) 令和6年3月卒業生の就職状況

令和6年3月末現在 (単位:人)

		文化政策学部				デザイン学部	計
		国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科	学部計	デザイン学科	
卒業生	a	101	59	60	220	111	331
就職希望者	b	90	55	53	198	92	290
(就職希望率)	b/a	89.1%	93.2%	88.3%	90.0%	82.9%	87.6%
就職者	c	88	54	53	195	84	279
大学院進学者	d	1	0	2	3	9	12
その他	e	10	4	5	19	10	29
就職率	c/b	97.8%	98.2%	100.0%	98.5%	91.3%	96.2%

(内訳)

大学院進学者	d	1	0	2	3	9	12
実績	本学	1	0	1	2	8	10
	他大学	0	0	1	1	1	2

(2) 県内外の就職状況

令和6年3月卒業生 (単位:%)

学部	出身	県内就職	県外就職
文化政策学部	県内出身者	44.1	36.0
	県外出身者	55.9	84.4
	小計	100.0	63.1
デザイン学部	県内出身者	25.0	47.6
	県外出身者	75.0	82.5
	小計	100.0	73.8
全体	県内出身者	38.4	38.3
	県外出身者	61.6	83.7
	合計	100.0	66.3

(3) 就職先業種の状況

令和6年3月卒業生 (単位:人)

学部/業種	農業	建設・不動産	製造	運輸通信	卸小売	金融・保険	サービス	公務	他
文化政策学部	0	10	28	16	38	17	54	26	6
デザイン学部	1	8	32	1	14	2	24	1	1
全体	1	18	60	17	52	19	78	27	7

(4) 就職率の推移

(単位:%)

卒業時期	全体	文化政策学部	デザイン学部	※参考:全国
令和4年3月	96.5	96.9	95.5	95.8
令和5年3月	96.3	97.2	94.6	97.3
令和6年3月	96.2	98.5	91.3	98.1

(5) 就職先地域の県内・県外別推移

(単位：%)

就職先地域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
県内	33.8	36.7	39.4	35.9	33.7
県外	66.2	63.3	60.6	64.1	66.3

(6) 本学への求人件数の推移

(単位：件)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
10,449	12,418	13,878

2 大学院生

令和6年3月修了生の就職状況

令和6年3月末現在 (単位：人)

		文化政策研究科	デザイン研究科	計
修了者	a	4	11	15
就職希望者	b	2	9	11
(就職希望率)	b/a	50.0%	81.8%	73.3%
就職者	c	2	7	9
進学者	d	1	0	1
その他	e	1	2	3
就職率	c/b	100.0%	77.8%	81.8%

3 各種資格免許

(単位：人)

卒業年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高等学校教諭1種免許状 (英語、国語、公民)	8	10	13	5	10
中学校教諭1種免許状 (英語、国語、社会)	8	9	9	5	6
学校図書館司書教諭資格	3	6	4	2	2
図書館司書資格	31	36	25	24	21
博物館学芸員資格	14	15	16	21	13
一級建築士試験受験資格 (実務経歴を除く)	23	15	16	25	27
二級及び木造建築士試験受験資格	23	15	16	25	27

1 各種研究費

(1) 個人研究費

令和6年度は、全専任教員対象で一人あたり年額44万円。大学院兼務教員への加算（講義担当者：2.5万円、研究指導担当者5万円）や、公開講座、公開工房、高大連携への協力実績に応じた加算あり。令和3年度に限り新型コロナウイルスの影響に配慮した令和2年度未使用額の繰越（上限10万円）も行った。

(2) 教員特別研究費

教員特別研究費制度を設け、教員の研究活動を支援している。研究内容について申請をした教員にヒアリングを行い、採択の可否及び配分額を決定している。

【教員特別研究費：採択実績】

(単位：件、千円)

研究区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
重点研究	6	5,178	5	3,451	6	3,340	6	4,325	2	2,306
先進的研究	5	2,198	4	2,714	4	2,480	3	1,040	4	2,093
その他研究	6	2,711	4	1,917	4	2,011	1	700	1	977
文芸センター研究	3	1,949	4	2,680	5	2,808	4	2,069	3	1,362
合計	20	12,036	17	10,762	19	10,639	14	8,134	10	6,738

(3) 科学研究費補助金（科研費）

科研費は、文部科学省および日本学術振興会が実施する競争的資金で、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とする競争的資金であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

【科研費：新規採択実績】

(単位：件、千円)

研究区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基盤研究(B)(一般)	2	24,440			1	6,240	1	15,020		
基盤研究(C)(一般)	2	7,800	3	10,920	4	15,210	6	27,560	1	4,550
研究活動スタート支援	1	2,340								
若手研究					2	8,970			1	4,680
国際共同研究強化(B)	1	6,370								
新学術領域研究										
ひらめき☆ときめき			1	490			1	300		
研究成果公開：学術図書					1	1,000	1	1,400		
合計	6	40,950	4	11,410	8	30,420	9	44,280	2	9,230

【科研費：採択率】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
申請数	25件	14件	23件	21件	16件
採択数	6件	4件	8件	9件	2件
採択率	24%	29%	35%	43%	13%

2 研究成果の発信

(1) 研究紀要

(単位：件)

Vol.	Vol.1	Vol.2	Vol.3	Vol.4	Vol.5	Vol.6	Vol.7	Vol.8	Vol.9	Vol.10	Vol.11	Vol.12
原著論文					7	7	9	6	4	4	9	10
研究報告、他					10	9	6	10	14	17	9	5
合計	17	19	15	21	17	16	15	16	18	21	18	15
Vol.	Vol.13	Vol.14	Vol.15	Vol.16	Vol.17	Vol.18	Vol.19	Vol.20	Vol.21	Vol.22	Vol.23	Vol.24
原著論文	12	14	11	10	14	11	13	11	18	7	5	5
研究報告、他	12	9	8	9	8	8	9	6	11	11	9	8
合計	24	23	19	19	22	19	22	17	29	18	14	13

紀要の掲載内容の種類は未発表の研究論文、研究報告、作品論、作品報告等で構成され、言語は日本語、外国語のいずれでもよいものとしている。査読は行っていない。Vol.15からWeb版のみを刊行。Vol.21は、大学創立20周年記念特別号として冊子化した。

(2) 研究成果発表会

教員特別研究の成果を発表するため、平成26年度から毎年11月頃に開催している。平成26年度と平成27年度は、学長特別研究と文化・芸術研究センター特別研究が発表の対象となっていたが、平成28年度からは、全ての教員特別研究を発表の対象としている。

3 各種制度

(1) 出版助成

出版助成の対象は、本学常勤教員が、学術研究の成果を公開するために出版するものであることとし、外部共著者がいる場合には、本学教員が関わっている部分が、総ページ数の50%を切らないことを条件とする。ただし、他の出版助成金を受けたもの又は受ける予定のあるものは対象外とする。

また、助成回数は10年に1回限りとするが、共著の場合は個人とは別に10年に2回までとする。1件当たりの助成額は、直接経費の2分の1以内かつ100万円以内を原則とし、助成総額は予算の範囲内とする。出版部数は、原則として300部以上とする。

(2) 学外研修制度

学外研修は、本学教員の職務を免除し、研究活動に専念する機会を与えることにより、教員の教育及び研究能力の向上を図ることを目的とする。

①海外研修

自らの学術専攻分野に関わる研修等で国外の政府、大学、研究機関等において行うもの。

②国内研修

自らの学術専攻分野に関わる研修等で、国内の他大学、研究機関等において行うもの。

学外研修の対象教員は専任の教授、准教授及び講師の職にある者で次の要件を満たす者とする。

- ・ 研修申請年度の4月1日現在、引き続き7年以上（休職期間を除く）在籍している教員であること。
- ・ 研修終了後、引続き3年以上本学に専任教員として在籍すること。
- ・ 研修の期間は、海外研修 概ね2週間から3か月程度とし、国内研修 概ね6か月以内とする。ただし、研修を実施した教員は、以降9年間は申請することはできない。

1 地域貢献

(1) 生涯学習ニーズへの対応

ア 科目等履修生、社会人聴講生実績

(単位：科目、人)

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
開 講 科 目 数	0	0	0	30	37	30
社会人聴講生	0	0	0	44(50)	50(64)	51(61)
科目等履修生	0	0	0	1(1)	2(4)	1(1)
計	0	0	0	45(51)	52(68)	52(62)

注：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2・3年度は社会人聴講生の募集を停止。
() は延べ数

イ 公開講座等実績

(単位：回、人)

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
公 開 講 座	4	451	5	447	4	317
新 能	2	150	2	503	0	0
文化・芸術セミナー	1	124	2	431	0	0
イベント・シンポジウム	8	1,967	13	1,866	13	2,242
そ の 他	0	0	6	671	4	1,507
計	15	2,692	28	3,918	21	4,066

2 産学官連携

大学の持つポテンシャルを社会に還元するため、民間企業や自治体・団体等学外の機関（学外機関）と本学が共通の課題について研究を行う共同研究や、学外機関からの委託を受けて行う受託研究、受託事業等を行っている。

(単位：件、千円)

種 別	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	4	3,628	4	3,723	1	999
受託研究	1	1,100	1	1,200	3	2,920
受託事業	8	6,051	15	11,095	11	12,167

3 ふじのくに地域・大学コンソーシアム事業

高等教育機関相互の連携を深め、また、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、県内高等教育機関の教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、それぞれの主体が一体となって、地域社会の発展に寄与していくことを目的とし、平成26年3月27日に設立。平成27年4月1日、静岡県から公益認定を受け、公益社団法人となった。

(1) 短期集中単位互換授業

学生が他大学の科目を履修し、在籍大学の単位として認定する制度（単位互換協定校が対象）。本学は平成30年度に単位互換協定を締結し、平成31年度（令和元年度）入学生（新カリキュラム）から単位互換が可能となった（全学科目 総合「特別共同授業B（2単位）」として認定）。

「ふじのくに学」開講講座名
演劇論
静岡県の産業イノベーションⅠ/Ⅱ/Ⅲ
お茶
南アルプスの自然
富士山の自然と社会
農林業
森林生態系からの恵み
伊豆の温泉と産業おこし
観光学

(2) 高大連携推進事業

高校生等に大学の学問や大学生活を知る機会を提供し、進学意欲や目的意識の向上を図るため、大学と高校が連携し、大学等の教員による高校への出張講義や大学生によるワークショップなどを行う。

(令和5年度実績)

高等学校名	講座テーマ	講師
静岡北高等学校	静岡市を個性的で魅力ある街に	藤井康幸教授 (文化政策学科)

(3) 西部地域共同授業

県西部地域の7大学（静岡大学(工学部・情報学部)、静岡理工科大学、静岡産業大学、聖隷クリストファー大学、浜松学院大学・短期大学部、常葉大学、静岡文化芸術大学）及び3市（浜松市・磐田市・袋井市）が連携、協力して大学教育の充実や地域の学術振興を図るため、西部地域の大学間連携による共同事業を実施。令和5年度は10/7～12/16の期間、土曜日の午前に全8回講座を開催した。

令和5年度テーマ：「人間と環境」～コロナ禍によってもたらされた変容～

本学が担当した講座	講師	会場
デザイン教育の最新動向 ～コロナ禍によってもたらされた変容と不変を中心に～	中川 晃 (本学デザイン学部准教授)	静岡文化芸術大学

(4) ゼミ学生等地域貢献推進事業

自治体等が抱える地域課題解決のための実践的な研究を行う県内大学のゼミ及び県内学生により組織された団体に対して、助成を行う。

(単位：件)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
採択件数	3	5	7	5	7	7	4

(令和5年度実績：採択4件)

	ゼミ名称 (学科)	地域課題名 (自治体)
1	水谷・西田ゼミ (国際文化)	古文書整理 地域資源としての古文書を考える (川根本町)
2	船戸ゼミ (文化政策)	浜松市北区引佐町久留女木地区における地域資源を活かした集落づくりについての研究 (浜松市)
3	二本松ゼミ (国際文化)	春野町における民間口承文化財 (昔話) の調査・記録・公開による地域文化の保存と継承 (浜松市)
4	藤井ゼミ (文化政策)	廃校を活用した敷地地区の地域再生デザイン構想の具現化 (磐田市)

(5) ふじのくに地域・大学フォーラム

「ゼミ学生等地域貢献推進事業」の研究成果や「共同研究助成事業」の中間報告、高校生の活動紹介などの合同発表を行う。令和5年度は「ゼミ学生等地域貢献推進事業」4ゼミの学生及び教員が参加し、報告した。

4 高大連携事業「出張講義」等の実施状況

(単位：校、人)

令和5年度	
出張先 高校数	教員数
24	27

5 国・県・市町等の各種審議会、委員会等への教員参画状況

(単位：人、件)

令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
教員数	委員会等数	教員数	委員会等数	教員数	委員会等数	教員数	委員会等数
88	192	87	213	92	194	92	212

6 施設見学・施設開放

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
オープンキャンパス	実施なし	8/7・8 (YouTube配信)	8/6・7 (定員制・対面 YouTube配信)	8/5・6 (対面)
県民の日(イベント)		実施なし	8/23	8/22
学外者の施設利用	講堂、教室等の貸出			

1 生活支援（保健室・学生相談室・修学サポート室等）

大学生活を送るうえで心身の健康を保つためのサポート制度を整備している。直接施設に出向くことが難しい場合は、メール、電話での相談も可。相談者の秘密は保持される。

困っていること	施設名	開室日時
<ul style="list-style-type: none"> ・ケガをしてしまった、体調が悪い ・病気の相談をしたい、健康に不安がある 	保健室	月～金曜 9:00～17:00
<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーに話を聞いてもらいたい ・心に不安を抱えている 	学生相談室	月、火、木曜 9:00～17:00 水、金曜 9:00～16:00
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが苦手、グループワークが苦手、思いを上手く伝えられない等、授業に支障がある ・身体に障害がある 	修学サポート室	月～水、金曜 9:00～17:00

1 英語教育の充実

本学では、「多文化・多言語教育研究センター」を中心に英語教育の充実を図っている。

英語関係授業 *令和元年度以降入学生カリキュラム

(1) 基礎英語：コミュニケーション能力向上を目指す授業、8科目（全学科目7、国際文化学科科目1）

学年	区分	科目名	概要
1年	全学	英語コミュニケーションⅠ (A・B)	A…「聞く・話す」ための運用能力を高めることを目的とする。 B…「読み・書く」ためのさらなる知識と運用能力を高めることを目的とする。
		英語コミュニケーションⅡ (A・B)	A…英語コミⅠAで身につけた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばす。 B…英語コミⅠBで身につけた「読み・書く」ための運用能力をさらに伸ばす。
		マルチメディア英語Ⅰ	LL教室で、疑似体験型の英会話ソフトを使い、スピーキング、リスニング、コミュニケーションの能力増強を図る。
		マルチメディア英語Ⅱ	マルチメディア英語Ⅰで身に付けたスピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力のさらなる増強を図る。
	国際	英語表現法	英語による効果的な文章作成、論文作成、口頭発表ができるような英語表現技法の基礎力を養うことを目的とする。
2年	全学	英語コミュニケーションⅢ (A・B)	A…英語コミⅡAで身につけた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばす。 B…英語コミⅡBで身につけた「読み・書く」ための運用能力をさらに伸ばす。
		英語コミュニケーションⅣ (A・B)	A…英語コミⅢAで身につけた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばす。 B…英語コミⅢBで身につけた「読み・書く」ための運用能力をさらに伸ばす。
		マルチメディア英語Ⅲ	マルチメディア英語Ⅱで身に付けたスピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力のさらなる増強を図る。

(2) 応用英語：実務的な英語を学ぶ授業、6科目（全学科目2、国際文化学科科目4）

学年	区分	科目名	概要
3年	全学	ビジネス英語Ⅰ	グローバルなビジネス社会で活用されているビジネス英語と文章作成方法の基礎を身につけ、国際的なビジネスの現場で通用する英語能力を身につける。
		ビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語で実務レベルでさらに実践的な文章作成法を学ぶとともに、海外・国内で外国人と交流する際に必要なマナーを身につける。
3年	国際	英語上級 観光英語	国内や海外で活躍できる、旅行者を案内するツアーコンダクターやツアーガイド、その他観光業に必要な英語の基礎から実践的な力までを習得する。
		英語上級 会議英語	会議や集会、国際会議などで議長、司会者、進行係として会議をリードできるような英語の理解力と発信力、リーダーシップ力を養う。
		英語上級 通訳	将来通訳のプロ、または国際化社会における多言語企業で働く者として、必要な技能を養う。通訳養成に使われる訓練法、英語から日本語、日本語から英語へとすばやく転換する力を養う。
		英語上級 翻訳	将来の翻訳者を育成するため、大学の授業で翻訳の理論と方法を学び、実務翻訳演習を行う。

(3) 語学以外の英語による授業：5科目（国際文化学科科目4、デザイン共通科目1）

学年	区分	科目名	概要
1年	国際	Global Studies: Culture and Society A	多くの国々の基盤となる社会と文化がどのように成立し、複数の社会や文化が相互関係の中でどういった影響を与えながら変遷してきたかを学ぶ。
2年	国際	Global Studies: Culture and Society B	多様な文化の中で、特に音楽、演劇、美術、空間造形など、芸術分野の活動がどのような変化を続け、各地の文化と社会にどういった影響を与えてきたかを学ぶ。
		Global Studies: Global Issues	地球規模問題群（global issues）について英語で講義・討論を行う。各問題の概要と地球社会の取組について英語文献を読み解き、自らの考えを英語で表現・討論する能力の涵養を目的とする。
		英語文学概論A・B	英文学史において歴史的に評価の高い重要な作品を概観しつつ、それぞれの作品の時代的背景、作品の表現技法、その背後にある思想、その時代の文化、プロット、作品内部に内在するテーマなどの特徴について考察し、論じる。
3年	デザイン	Design English	クリエイションの意図を第三者に分かりやすく説明することを前提とした表現技法を学習する。デザイナーに求められる能力にコミュニケーション力があり、授業ではグローバルな視野から英語によるプレゼンテーションに取り組む。

2 実践演習の科目と履修者の推移

(単位：単位、人)

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		履修者	履修者	履修者	
全 学 科 目	実 践 演 習	地域連携演習	139	244	310
		企画立案演習	301	202	240
		自主課題演習	0	3	5
合 計		440	449	555	

※地域連携演習、企画立案演習、自主課題演習とも各1単位。

※実践演習は卒業要件1単位。

1 財務諸表及び予算収支

(1) 経常費用と経常収益の推移（令和3～令和5年度損益計算書より）

- ・経常費用（約26億円）の6割超（約16億円）が人件費である。

(単位：百万円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費	1,712	1,679	1,641
教育経費	311	365	297
研究経費	87	111	94
教育研究支援経費	233	247	271
一般管理費	282	295	265
合計	2,625	2,697	2,568

- ・経常収益（約27億円）の約6割（約16億円）が静岡県からの運営費交付金収益である。

(単位：百万円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運営費交付金収益	1,595	1,563	1,569
学納金収益	872	871	891
外部資金等収益	135	204	111
資産見返負債戻入	28	24	0
その他の収益	37	41	44
合計	2,667	2,703	2,615

(2) 当期総利益、利益剰余金の推移（令和3～令和5年度損益計算書、貸借対照表より）

- ・経常収益から経常費用を差し引いたものに資金見返寄附金戻入、積立金取崩収入等を加えた当期総利益は、令和5年度は1,242百万円となった。

(単位：百万円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
当期総利益	85	75	1,242

- ・発生した当期総利益のうち静岡県知事の承認が得られたものは、目的積立金として管理し、今後予想される大規模な施設・設備の修繕や情報関連機器の更新等の財源として活用していく。

(単位：百万円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
前中期目標期間繰越積立金	37	226	195
目的積立金	190	0	75
当期末処分利益	85	75	1,242
利益剰余金合計	312	301	1,512

1 施設概要、蔵書・主な所蔵資料

(令和6年3月31日現在)

場所、床面積	北棟1・2階・西棟2階、2,814㎡
主な施設	閲覧コーナー(212席)、グループ学習室、貴重書庫、視聴覚コーナー、キャレル(25席)、固定書架、電動書架、メディアステーション(PC12台、プリンター等)、情報検索コーナー(PC22台、プリンター等)、貸出PC20台
開館時間	平日 8:45~20:00(試験期間中は8:45~21:00、授業のない期間は9:00~17:00) 土曜日は10:00~16:00
蔵書	和書 235,429冊(4,039)、洋書 28,543冊(530) ()はCD、DVDなど視聴覚資料(外数)
雑誌	和雑誌 1,509タイトル、洋雑誌 246タイトル
その他	高坂文庫(約4,100冊)、木村文庫(約5,200冊)、和田文庫(約1,200冊)、電子ジャーナル(2,866タイトル)、電子書籍(72冊)

2 利用実績

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館者数	33,561人	75,824人	81,981人	82,326人
貸出冊数	17,732冊	33,362冊	34,234冊	33,084冊
貸出者数	6,270人	13,103人	13,473人	13,493人
学生1人当り年間貸出冊数	9冊	19冊	19冊	18冊
相互利用	依頼	472件	349件	509件
	受付	136件	183件	156件

一般開放の実績

<p>登録者数</p> <p>一般(地域の方など) 162人 本学の卒業生・修了生 44人 本学の旧教職員 4人 (2024年5月末現在)</p>	<p>利用できる方</p> <p>当センター所蔵資料を利用して学習もしくは調査研究をする方で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県内に居住、もしくは静岡県内の事業所等に勤務する20歳以上の方 ・本学の卒業生、旧教職員 ・本学図書館、情報センター長の許可を受けた方
---	--

3 利用案内

レファレンス	必要な資料の所蔵調査や文献探索等の相談に応じるサービス。
コピーサービス	所蔵資料を教育、研究又は学習のために複写する場合に限り館内のコピー機を利用することが可能。
相互利用サービス	探している文献が館内で見つからないときに、他の大学図書館や国立国会図書館から文献の複写依頼、図書への貸借ができる。他大学図書館の訪問利用も可能。 (注) いずれも本学館内において手続きが必要
オンラインデータベース	CiNii(国立情報学研究所が運営する、論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース・サービス)、Magazine Plus(雑誌記事索引検索)、雑誌記事索引データベース、大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版、朝日新聞クロスサーチ、ヨミダス歴史館、静岡新聞データベースplus日経テレコン、中日新聞・東京新聞記事データベース、ジャパンナレッジLib。
国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス	国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、館内で画像の閲覧・複写ができるサービス。
購入希望図書	学習・研究に必要な図書資料で館内に所蔵がなく、館内に配架してほしい図書をリクエストできるサービス。

【メディアステーション ～ “知の拠点”の新たなランドマーク】

ノートPCやタブレット端末により手軽に情報検索が行え、自由度の高い家具配置によりグループワークなどのアクティブラーニングが可能なエリアにリニューアル。デザインアーカイブである名作家具やポスターなどを通して、それらが制作された時代に触れることのできる空間に生まれ変わった。

【充実した図書館教育】

学部1年次必修科目「学芸の基礎」において、図書館職員が図書館の活用法やデータベースの利用方法等について講義する「資料探索法」を実施。講義は2コマ（90分×2回）で、図書館の館内ツアー等も行っている。

【特色あるコレクション】

高坂文庫	本学の初代学長に就任予定だった高坂正堯先生のご遺族から寄贈された本、約4,100冊。先生のご専門である国際政治や外交分野が多い。
木村文庫	初代学長・木村尚三郎先生のご遺族から寄贈された本、約5,100冊。西洋史を中心とした、文化・芸術に関するコレクション。
ラスキン文庫	イギリスの美術批評家・社会思想家であるジョン・ラスキンの全集。
和田文庫	浜松市北部の天竜区龍山で、江戸時代に山林業・酒造業・回船問屋を生業としていた和田家が、江戸時代中期から後期にわたり収集した歌書、史書、漢籍、遠州国学関係の古書、千百余冊。
ベーターヴェン・コレクション	ベルリン国立図書館所蔵（旧プロイセン文化財音楽部門）の手書き楽譜資料のマイクロフィッシュ。275点のカラーフィッシュを含む全460フィッシュの資料集成。

【学術リポジトリ】

本学の教育及び学術研究成果を社会に還元するため、本学教職員が作成した学術成果を電子的形態で蓄積、保有し、学内外に無償で発信及び提供している。（国立情報学研究所が運営する「JAIRO Cloud」に参加している）

4 充実した情報教育環境

（令和6年3月31日現在）

1年次に情報リテラシーに関する授業を必修科目として行うため、401・402・407の3つの教室が用意されている。401教室はLL教室として、パソコンを使って教員と学生が双方向で外国語の授業ができるシステムを導入している。利用できるパソコンの台数は以下の通り。

401（LL）教室 56台（Windows）

402 教室 42台（Windows）

407 教室 66台（Windows）

主な情報系工房には以下の台数のパソコンが設置されている。

グラフィックWS室 40台（Windows）

CG工房 14台（Windows）+ 2台（Mac）

マルチメディア室 50台（Mac）

OA室 53台（Windows）+ 2台（Mac）

人体機能実験室 4台（Windows）

電子制御機器製作室 20台（Windows）

CADCAM室 6台（Windows）

空間演出実験室 6台（Windows）

平面工房 2台（Mac）

空間演出実験室には、A0サイズもカラー印刷できる大型プリンター（プロッタ）が6台用意されている。

本学のほとんどのパソコンには、Windows・Macを問わず、Microsoft Office365、及び、Adobe Creative Cloudがインストールされているため、図書館・情報センター内メディアステーションでの論文・課題作成の他、指導教員等の許可を得て情報系工房での作品の制作に取り組むことができる。

グラフィックWS室には3D画像を作成できるソフトが、CG工房には3D画像及びCG画像を作成できるソフトがあり、専攻した学生は指導教員等の許可を得て教室での作品制作ができる。

5 本学での無線LAN (Wi-Fi)

本学の学生・教職員であれば、学内ネットワークによる無線LAN (SUAC Wi-Fi) を利用することができる。

1 設置目的

文化・芸術研究センターは、「両学部の連携のもと、文化芸術に関する専門的研究成果を学内外に広く発信するとともに、国際社会や地域社会との幅広い交流及び連携を図ること」を目的としている。

2 センター機能

文化・芸術研究センターの機能は、文化・芸術研究センター規則により、以下のように定められている。

(1) シンボル機能

両学部連携及び大学理念の象徴、特徴的空間による感性の刺激

(2) 研究開発機能

文化芸術に関する根源的研究、新しい文化・芸術活動の展開

(3) 情報受発信機能

開かれた大学の理念実現に向けた研究成果・活動内容の情報受発信

3 センター運営

文化・芸術研究センターの運営は、文化・芸術研究センター長のほか、各学部長、各研究科長、事務局長等によって組織された「文化・芸術研究センター運営委員会」が必要な事項を審議し運営を行い、事務を企画室が担当している。

4 主な関連施設

(1) 文化・芸術研究センターホール及び瞑想空間

授業実施日の9:00~18:00は、基本的に開放し、学生、教職員が自由に使用することが出来る。常設備品として、ピアノが1台設置されているが、これも自由に使用できる。但し、授業や学生イベントを実施する場合は、事前の申請により占有利用も可能である。

(2) ギャラリー ※通称「西ギャラリー」

ギャラリーは、「静岡文化芸術大学における教育・研究・学生活動に関連又は寄与する展示及び行事等を行うために使用する」と定められており、使用できるのは、本学教職員、本学学生、総括施設管理者(=事務局長)が必要と認める者のみとしている。一般に開放できる施設には位置付けられていないため、学外者は大学・教員・学生主催の事業や、展示会等の観覧、見学者としてのみ参加可能。展示会等を実施することが多いため、土日及び祝日も時間内(9:00~16:00)であれば、学内者の使用や学外者の入館が可能である。

1 設置目的

本学と地域との連携や交流を深め、本学における文化やデザインにかかわる大学の知見を活かした産業振興や地域づくりを行う。

2 センター業務

地域連携センターの業務は、地域連携センター規則により、以下のように定められている。

- (1) 企業、自治体、大学等との連携に関すること
- (2) 地域連携活動に伴う公開講座、イベント、シンポジウム等に関すること
- (3) 地域課題に係る調査研究に関すること
- (4) その他、地域との連携及び交流並びに地域貢献に関すること

3 センター運営

地域連携センターの運営は、地域連携センター長のほか、各研究科長、事務局長等によって組織された「地域連携センター運営委員会」が必要な事項を審議し運営を行い、事務を地域連携室が担当している。

4 主なセンター事業（令和5年度までは、文化・芸術研究センター事業として実施）

(1) 公開講座

令和5年度実績

テーマ	内 容
<p>コーヒー2050年問題とフェアトレードの現在 おいしいコーヒーを飲み続けるために私たちに何ができるか？</p>	<p>概要：本学でこれまで取り組んできたフェアトレードに関する研究を、市民に広く公開した。また、専門家との議論を通じて、気候変動に対して消費者がどのような貢献ができるかを考えた。</p> <p>日時：令和5年6月24日（土）13:30～15:30</p> <p>プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動とコーヒー生産者の応答—今、コーヒーの生産現場で何が起きているのか？ 武田淳准教授 ・フェアトレード市場の最前線—国際フェアトレード認証の最新動向より 中島佳織（フェアトレード・ラベル・ジャパン） ・ネパールの環境配慮型農作物が生み出す持続可能な雇用 渡未絢（日本品質保証機構） ・持続可能なコーヒーとは？スリランカの小規模コーヒー農家を訪ねて 小倉亜沙美（呉工業高等専門学校准教授）

テーマ	内 容
<p>近世日本の医・薬・食文化とその 現代的復元 ー歴史学を観光に繋ぐー</p>	<p>概要：徳川家康期以降の近世日本の食文化と医学・薬学史に関する学術的成果と、それに基づく菓子職人・薬剤師との協働で「復元」された料理等を公開し、観光学上の意義を検証した。</p> <p>日時：令和5年7月9日（日）13:30～17:00 プログラム： ・近世日本における薬としての食物 一菓子と茶に注目してー 宮崎千穂 准教授 ・徳川幕府嘉定菓子と近世菓子の復元 宮崎千穂、内田弘守（巖邑堂） ・徳川家康の薬を薬膳茶で“再現”する 秋山あかね（和薬・漢方の本草閣） ・体質に合った薬膳茶を作ろう 秋山あかね、坪松かおり（和薬・漢方の本草閣）</p>
<p>道具が語る日本の文化とものづくりの技術</p>	<p>概要：日本の文化と芸術の中で継承されてきた「ものづくり文化」を、道具を通じて紐解いた。 午前の講演に続き、午後は、実際に大工道具を用いて、木材の感触や性質を知りながら、手という「優れた道具」について体験した。</p> <p>日時：令和5年10月1日（日）9:30～16:00 プログラム： 〔講演〕 ・山里の道具と生活文化 外立ますみ（常葉大学非常勤講師） ・大工道具と木の文化 水野日出男（大工）、新妻淳子准教授、山口貴一特任助手 ・日本の文化とものづくりの技術 外立ますみ、水野日出男、荒川朋子准教授、新妻淳子、山口貴一 〔ワークショップ〕 大工道具を使う、道具としての手を知る 水野日出男、外立ますみ、荒川朋子、新妻淳子、山口貴一</p>

(2) イベント・シンポジウム

イベント・シンポジウム等開催費を活用し、教員監修による各種イベント、シンポジウム等を開催している。

令和5年度実績

イベント等名称	開催日	内 容
公開イブニングシンポジウム 地域を育む食文化観光 —トルコと日本—	8月30日(水)	本学とイズミル経済大学の学生が参加した産学共同国際デザインワークショップのキックオフイベントとして実施。 トルコ第三の貿易都市であるイズミルが展開するガストロノミー・ツーリズム計画と伊豆賀茂地域の観光資源および課題を紹介し、地域を育むツーリズムについてディスカッションを行った。
障害者文化芸術支援 ワークショップ (華を結うひとたち展)	10月19日(木)から 10月23日(月)	静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと等と連携し、障がいを持つ若者等とともに作成した「手形アート」を本学ギャラリーで展示した。
まぼろしの祝祭 —天竜・横山の神遊び—	11月17日(金)から 11月22日(水)	浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会及び浜松市文化財課と連携し、横山八幡神社に伝来した11の面と祭具やこれらに関連したパネルを展示・公開した。また、公開講演会、ギャラリートーク、神楽の実演などもあわせて開催した。
メディアデザインウィーク 2024	2月1日(木)から 2月7日(水)	デザイン学部ビジュアルサウンド領域、インタラクティブ領域の学生作品を展示し、教育研究活動の成果を披露した。
2024まちむらリレーション 市民交流会議 浜松の中山間地域の可能性を 考える	2月22日(木)	本学学生や中山間地域で活動するNPOの中山間地域づくりの取り組み事例発表や講演会を通して、浜松の中山間地域の可能性を探った。
科学に関する啓発イベント	3月18日(月)から 3月30日(土)	技術の進歩により近年分かってきた惑星の色や特徴に着目した展示を図書館展示スペースにて実施した。またオンラインにて「太陽系の色」と題するワークショップを実施し、参加者が制作した惑星の絵を発表した。

1 概要

本学には造形系工房、実験系工房、情報系工房合わせて32の工房があり、デザイン学部の授業で利用されている。また、課題や自主制作、卒業研究・制作等を行うため、学生はこれらの工房を授業時間外にも利用することができる。

2 利用可能時間

平日9：00～17：50の授業で使用していないとき（教員の承認があれば21：00まで延長可）
土日の利用は原則不可

3 利用手続き

助手研究室に「工房使用願」を提出し、利用する。

4 学生への指導

(1) 工房を安全に利用するため、学生に対して次のような指導を行っている。

- ・工房を利用する際は必ず決められた手続きを行うこと
- ・各工房で定められた服装・保護具を着用すること
- ・情報系工房の利用中は工房を不在にしないこと
- ・機械使用基準を遵守すること。（その機械の危険度に応じて学生の使用を禁止したり、教員・助手の立会いを必要とするなど基準を制定している）

(2) 次の工房については、年に2回（夏休み・春休み）、機械講習会を実施している。講習会を受講した学生には許可証を発行している。

木材加工室の機械、金属加工室の機械、工作室のレーザー加工機、撮影スタジオの設備

5 コース演習室

コース演習室は大学南棟の4階・5階にありデザイン学部の学生が課題制作等を行うことができる。

授業期間の平日・授業日：7：00～21：00使用可能

（9：00～21：00は手続不要。早朝使用は守衛室に学生証提示）

授業期間外の平日・土日祝日：7：00～19：00（教務・学生室へ使用届を提出）

6 工房等一覧

本学には素材や目的に応じて、様々な工房が整備されています。

中には授業時間以外にも使用することができる工房もありますが、工房には危険な機械や取扱いに注意を要する機器等がありますので、使用する場合は定められた手続きをとるとともに、安全管理に関するルールを遵守し、ケガなどに十分注意してください。

	工房名	室番号	目的	主な機器等
造形系 工房	1 金属加工室	北138	金属加工	旋盤、フライス盤、シャーリング
	2 木材加工室	南183	木材加工	バンドソー、カンナ盤、ベルトサンダー
	3 ガラス工房	東265	ガラス加工	ガラス旋盤、除冷炉
	4 金属工房	南184	金属工芸（鋳造・溶接）	ガス溶解炉、高周波自動遠心鋳造機
	5 塗装乾燥室	東168	塗装・乾燥	オートブース、塗装ブース、乾燥炉
	6 クレイモデル室	南179	クレイモデル製作	三次元測定システム
	7 ドライモデル室	南180	ドライモデル製作	モデリングツール一式
	8 プラスティック加工室	南181	プラスチック加工	NCトリミング加工機、真空成型機
	9 木彫工房	東268	木材小作品の制作	小型糸鋸盤、小型ボール盤
	10 立体工房	北239	彫塑制作	彫塑制作台、粘土槽、真空脱泡機、バレル研磨機
	11 製図室	東368	製図	ドラフター
	12 平面工房	北240	グラフィックデザイン	作画作成パソコン(Mac)、簡易ホリゾント
	13 陶芸工房	東365	陶芸作品の制作	電動ろくろ、陶芸用電気炉
	14 染色工房	東367	染色	水槽、ガス台
	15 CAD/CAM室	南182	製図及び作図・モデル製作	WinPC
	16 暗室	北133	写真等の現像	引伸機、自動現像機
	17 テキスタイル工房	東266	テキスタイル作品の制作	手織り機、ガス台、水槽
	18 デッサン室	南487	デッサン	デッサン用具、石膏像
	19 録音スタジオ	北134	録音	録音機材、無響室
	20 撮影スタジオ	北135	写真撮影	スタジオ照明設備
	21 総合組立アトリエ	東167	大型作品の組立等	コンプレッサー、クレーン
実験系 工房	22 構造実験室	東169	構造実験・木材加工（大型）	万能試験機、ホイスト
	23 人体機能実験室	南286	人体機能実験	上肢/下肢測定装置、環境コントロール室、昇降設備
	24 UDラボ	南285	UD体験・検証	車椅子・疑似体験ツール・UD機器
	25 生物機能実験室	北339	生物機能実験	垂直風洞、水平風洞
	26 空間演出実験室	北136	空間演出実験	大型プリンター、調光システム、簡易撮影台
27 工作室	南178	デジタルファブリケーション	レーザー加工機、3Dプリンタ	
情報系 工房	28 電子制御機器製作室	北340	電子制御機器製作	PC組立部品一式、電子回路設計支援ツール
	29 O.A室	南391	CAD、3次元デザイン等	MacPC、WinPC、インクジェットプリンター、レーザープリンター
	30 マルチメディア室・サウンドスタジオ	南496	デジタルコンテンツの作成・編集、録音	サウンドスタジオ、MacPC、レーザープリンター
	31 グラフィックWS室	南595	3DCG制作、映像編集	WinPC、インクジェットプリンター、レーザープリンター
	32 CG工房	南594	3DCG制作、映像編集	WinPC、映像編集システム

※ 太字で記入された工房は、安全な服装が必要な工房です。

1 大学の設立の契機

平成2年に浜松市へ文科系大学を誘致する動きが起こり、平成3年4月に静岡県立大学短期大学部に「将来構想検討作業部会」が設置され、四年制大学への移行を検討すべきとの結論が出された。この動きとほぼ同時期に浜松市及び浜松商工会議所は、学生の人口流出状況から、四年制大学の設置に積極的であり、静岡県立大学短期大学部の四年制化を積極的に後押ししていくことになった。

平成4年4月に静岡県立大学短期大学部の入学式において、斉藤滋与史知事は、校舎が老朽していることに対し、「高等教育機関として相応しくないので検討すべき」と発言し、翌年2月に同短期大学部の四年制化を記者会見で公式に発言した。これにより、新大学設立の動きが加速していくこととなった。

平成5年8月に石川嘉延知事が就任した。当初は、有名私立大学を静岡県内に誘致する可能性を模索していたが、これまでの経緯から浜松市に四年制大学を設置することを了承した。

新大学を公設民営方式とすることにより、静岡県は大学に補助金を支出し、浜松市が用地を提供し、地元産業界は大学をサポートするという体制をとることになった。当時、公設民営方式の大学は少なく、平成9年に公設民営方式で開学した高知工科大学などを参考に事業を進めた。ただし、本学は既存の大学を改組転換したものであり、公立大学法人制度に先駆けるかたちで設置された全国最初の大学となった。

2 新大学の設立に向けて

平成6年4月に県大学室がそれまでの議論を踏まえて「新大学整備構想」を作成し、これが教育方針の土台となった。学長予定者には、高坂正堯京都大学教授を迎えることとし、平成6年8月に「新大学基本構想検討委員会」を設置し、「感性を磨き、新世紀を創造する開かれた大学」の基本構想を基に開学日、場所等を決定、県議会において公表した。

3 設立における基本構想

高坂先生は、「知性と感性の有機的な関係を作り上げたい」、「浜松を文化的な町にする、個性を持った町にする、それが我々の使命でもある」と述べ、浜松地域における大学の意義を強調した。また、教育方針として「見る、表現する、感動を与える」能力を育てることとし、哲学と歴史を大事にすることにより、表現力を育て、知性と感性のバランスのとれた人間をつくることが挙げられた。その後、高坂先生は急逝されその遺志は木村尚三郎先生に引き継がれた。

4 大学用地

当時、多くの大学が郊外に移転する傾向にある中、新大学は浜松市の中心部に設置するという方針をとった。

面積が十分ではなかったが、若者による街の賑わいの創出や都市イメージを高めることを目的とした。これは、大学を活用して中心市街地の活性化を図りたい浜松市側の意向と地域住民と連携したいという大学側の意向とが一致したものであった。

5 建築の特徴

本学の建物のデザインは指名設計競技によって、株式会社坂倉建築研究所（東京都港区）の提案に決定された。

「技術と芸術の結合」「二十一世紀を担う新しい大学」という基本的なコンセプトを基に以下の特色が挙げられた。

- ・「二十一世紀の新しい大学像」の創出
- ・「創造の丘」「思索の木陰」「研鑽の塔」がつくる景観シンボルの現出
- ・「開く空間」と「学習・研究のための守られた空間」の共存
- ・「ゆらぎの理論」・「共通感覚論」に触発された建築空間デザイン
- ・緑と共生する大学

また、静岡県が平成11年から政策的にユニバーサルデザイン理念を採用することになったことから、本学の建築はユニバーサルデザインを踏まえて設計・施工されたと謳うことになった。

このほか、①市民に開かれた大学として門をなくし数多くの場所から出入りができること、②廊下に壁がない構造、分かりやすいサイン表示の実施、③環境や景観への配慮としての人工地盤による屋上緑化、雨水再利用、太陽光発電の実施、④機能別に教室等を配置して学部・学科の垣根を取り外した構造などが挙げられる。

6 大学のあゆみ

平成10年	9月	文部大臣へ学校法人設立及び大学設置認可申請
平成11年	6月	学校法人設立及び大学設置認可第2次申請
	12月	文部大臣から学校法人設立及び大学設置認可 学校法人静岡文化芸術大学設立
平成12年	4月	開学（4月13日に開学式典及び入学式を挙行） 木村尚三郎学長 就任（平成18年10月まで）
平成15年	6月	文部科学大臣へ大学院設置許可申請
	11月	文部科学大臣から大学院設置認可
平成16年	1月	大学院入学試験開始
	3月	大学一期生卒業
	4月	大学院開学
平成18年	3月	大学院一期生卒業
	4月	デザイン学部技術造形学科をメディア造形学科に名称変更
平成19年	4月	川勝平太学長 就任（平成21年6月まで）
平成22年	1月	熊倉功夫学長 就任（平成28年3月まで）
	4月	学校法人から静岡県設立の公立大学法人へ移行 有馬朗人理事長 就任
	10月	創立10周年記念式典開催
平成27年	4月	デザイン学部3学科をデザイン学科1学科に再編し、新たに5領域を設定
平成28年	4月	横山俊夫学長 就任
平成30年	4月	フェアトレード大学認定（アジア初）
平成31年	4月	文化政策学部に「文明観光学コース」、デザイン学部に「匠領域」を設置
令和2年	7月	創立20周年記事業開催（記念式典は中止）
令和4年	4月	横山俊夫理事長兼学長 就任